

建造物

萱尾神社末社4社及び木札の調査について

千木良 礼子

1. はじめに

萱尾神社は、日野法界寺の北東に位置し、大己貴命を祀る。日野村の産土神として崇敬を集め、江戸時代までは法界寺の鎮守社でもあった。現本殿（図1）は慶安5年(1652)，法界寺坊中，在所年寄，近在の氏子により再建されたものである。大型の一間社流造で、その彩色装飾に特色がみられる。また建築年代がはっきりしており、造営以後の修理等についても棟札からほぼ明らかである。近世日野の建築活動を知る上でも貴重な遺構であるとして、昭和60年6月1日に市有形文化財（建造物）に指定された。合わせて、本殿と共に残された棟札等が附指定となった。

本殿の両側には、末社である柳社、田中社、その手前に若宮社、稻荷社が配置される。令和元年度には柳社と若宮社、令和2年度には田中社と稻荷社が京都市文化観光

資源保護財団助成金及び京都府社寺等文化資料保全補助金によって修理され、棟札や木札が発見された。そのため、発見された木札と末社4社の調査を実施した。既に本殿附指定となっている木札、及び今回発見された末社の木札一覧を表1に示す。

2. 末社について

（1）田中社

一間社流造見世棚造、銅板葺
身舎円柱、腰長押、内法長押、舟肘木、板軒、妻飾豕叔首
庇角柱、腰長押、舟肘木、繫虹梁、板軒
あめのほひのみこと
祭神は天穗日命である。社殿は、一間社流造見世棚造で、切石上に西面して立つ（図2）。軸部、扉等を丹塗り、壁や木口は胡粉塗りである。令和2年（2020）に修理を実施した。慶安5年（1652）の棟札1枚と木札1枚、文政2年（1819）の木



図1 本殿全景



図2 田中社全景

表1 木札一覧表

本殿 (S60年附指定17点)	柳社	田中社	稻荷社
承元の板材 (新造)			
文安3年の机甲板			
元和8年の奉加札			
慶安3年の木札 (造営)			
	慶安5年の棟札 (棟上)	慶安5年の棟札 (棟上)	
慶安5年の木札 (造営) ──────────→		慶安5年の木札 (造営)	
			承応4年の棟札等 (棟上)
寛文5年の棟札 (屋根)			
貞享3年の木札 (屋根・修理)			
元禄16年の木札 (屋根)			
安永6年の木札 (屋根)			
文政2年の木札 (屋根・修理) ──────────→		文政2年の木札 (屋根・修理)	
天保2年の棟札・木札 (屋根)			
嘉永6年の棟札 (屋根)			
明治24年の棟札・木札 (屋根・彩色)			
昭和4年の木札 (屋根)			
		昭和18年の棟札 (屋根)	
昭和36年の木札 (銅板葺・修理)			

→ は仮説



図3 田中社棟札取付き状況



図4 田中社床板の台鉋の痕跡



図5 田中社床板の台鉋と槍鉋様の痕跡



図6 田中社南側板の鉋の痕跡

札1枚、昭和18年（1943）の棟札1枚が確認された（図3、資料1）。

身舎柱は円柱で、繊維に沿って台鉋で加工している。室内側に加工痕がよく遺る。

室内の床板は、3枚から成る。手前と真ん中の板は縦挽鋸の後に台鉋をかけたもの（図4）、奥の板は台鉋で削った上に槍鉋のような（以下、槍鉋様と表記）加工痕が見

られた（図5）。室内の板壁（両側面）には鋸の痕跡が見られた（図6, 7）。板壁（背面）は後補材とみられる。屋根の野地板はコールタール様の塗料が塗られており、昭和期の後補材と思われる（図8）。

（2）柳社

一間社流造見世棚造、銅板葺
身舎円柱、腰長押、内法長押、舟肘木、板軒、妻飾豕投首
庇角柱、腰長押、舟肘木、繫虹梁、板軒
ににぎのみこと
祭神は瓊瓈杵尊と伝えられる。社殿は、一間社流造見世棚造で、切石の上に西面して立つ（図9）。軸部、扉などを丹塗りと



図7 田中社北側板の鋸の痕跡



図9 柳社全景



図11 柳社北東柱の台鉋の痕跡

し、壁や木口は胡粉塗りである。令和元年に修理工事を実施し（図10）、慶安5年の棟札1枚が確認された（資料1）。

部材の加工痕の様子は田中社と極めてよく似ている。身舎柱（北東隅）は台鉋（図11）、床板は台鉋の上に槍鉋様（図12）の、板壁（両側面）は鋸（図13）の仕上げであった。床板について、田中社では製材（縦挽鋸）の後に仕上げとして台鉋をかけた痕跡が見られたのに対し、柳社は製材の痕跡が残っておらず、仕上げの台鉋と槍鉋様の加工痕のみが見られた。



図8 田中社屋根解体



図10 柳社屋根解体



図12 柳社床板の台鉋と槍鉋様の痕跡

(3) 若宮社

一間社流造見世棚造、銅板葺
身舎円柱、腰長押、内法長押、舟肘木、板軒、妻飾豕投首
庇角柱、腰長押、舟肘木、繫虹梁、板軒

祭神は応神天皇と伝えられる。社殿は、一間社流造見世棚造で、切石の上に北面して立つ（図15）。軸部、扉などを丹塗りとし、壁や木口は胡粉塗りである。令和元年に修理工事を実施した（図14）。棟札や木札は確認されなかった。

身舎柱の内法長押より上には縦筋の加工痕が見られ円柱に見えるが、室内側から見た柱は、角材で田中社や柳社とは木肌の様子が異なっていた。床板は台鉋仕上げ、側面板壁は現代の機械鋸で仕上げられていた。扉の裏面には枠と板を組み立てた後、台鉋で一気に削った痕跡が見られた。田中



図13 柳社北側板の鉋の痕跡



図15 若宮社全景

社や稻荷社で見られた鉋痕はなかった。柱や棚、懸魚には風蝕が見られるなど一部古材が遺っている。

(4) 稲荷社

一間社流造見世棚造、銅板葺
身舎円柱、腰長押、内法長押、舟肘木、板軒、妻飾豕投首
庇角柱、腰長押、舟肘木、繫虹梁、板軒

祭神は応神天皇と伝えられる。社殿は、一間社流造見世棚造で、切石の上に南面して立つ（図16）。軸部、扉などを丹塗りとし、壁や木口は胡粉塗りである。他の3社よりも規模が小さい。令和2年に修理工事を実施し（図17），承応4年（1655）の棟札1枚と木札1枚が確認された（資料1）。

身舎柱は台鉋（図18），床板は2枚で縦挽鋸の後に台鉋をかけたもの（図19），板壁（側面・背面）は縦挽鋸（図20）と思わ



図14 若宮社屋根解体



図16 稲荷社全景

れる仕上げであった。扉の裏面は台鉋で丁寧に仕上げられていた。

3. 田中社と柳社について

田中社と柳社は、両社殿の棟札や木札、及び建物の部材の特徴などに、類似点がある。以下に挙げる。

- ・「田中社の慶安 5 年棟札」と「柳社の慶安 5 年棟札」は、記載内容、寸法がよく似ている。「大工元当所 藤原 源六（刻印）」とあり、大工の名前の後ろに、「小」と書かれた印が刻まれている（資料 1）。
- ・田中社と柳社の社殿の建築部材は、身舎柱に台鉋、床板に台鉋と槍鉋様、板壁に鋸の痕跡がみられる。床板の製材痕の有無という違いはあるが、柳社は製材後に全面的に仕上げをかけたため製材痕が遺っていないとすれば、両者は同じ方法で加工されたとみることができる。



図17 稲荷社屋根解体



図19 稲荷社床板の台鉋の痕跡

また、田中社の木札と本殿附指定の木札にも類似点がある。次の通りである。

- ・「田中社の慶安 5 年木札」と「本殿附指定の慶安 5 年木札」は、記載内容、寸法、加工痕が似る。表面には文字を書くための罫線が刻まれている。
- ・「田中社の文政 2 年木札」と「本殿附指定の文政 2 年木札」は、記載内容、寸法、加工痕がほぼ同じである。

さらに、「田中社の慶安 5 年棟札」「柳社の慶安 5 年棟札」「田中社の慶安 5 年木札」「本殿附指定の慶安 5 年木札」の 4 枚いずれも「萱尾大明神両社・・・」とある。「両社」とは本殿の両側に建つ田中社と柳社のことであり、「本殿附指定の慶安 5 年木札」は柳社のものであるという仮説が立てられる。さらに、「本殿附指定の慶安 5 年木札」が柳社のものであるならば、「本殿附指定の文政 2 年木札」もまた柳社のものが混在して保管されていたという仮説が立てられ



図18 稲荷社北西柱の台鉋の痕跡



図20 稲荷社東側板の縦挽鋸の痕跡

る（表1の矢印）。

遺された棟札や木札から、田中社と柳社の建築年代は慶安5年または文政2年のどちらかと思われる。両社は絵様も少なく、目視では時代判定が困難である。今後、建築部材の加工痕の研究や年輪年代など詳細な調査が進めば、より明らかになるだろう。

4. 本殿の建築年代について

前項の仮説、本殿附指定の慶安5年木札と文政2年木札が柳社のものであったとすれば、本殿の建築年代も再考すべきである。

本殿はこれまで慶安3年に建ててその後被災し、慶安5年に再建されたと考えられていた。慶安3年に建てられたとする根拠は、慶安3年木札及び、本殿の棟木板「萱尾神社并ニ拝殿建立修繕年代調（大正七年七月吉日 氏子総代）」とされる。また、慶安5年に再建されたとする根拠は、慶安5年木札である。昭和60年文化財指定時の調査では詳細は不明とし、慶安3年から同5年までのわずか3年で2度造営するのは不自然としながらも、当時の気象資料として『山鹿素行先生日記』の慶安3年7月27日に「山城摂津河内洪水 淀川逆流 京中水溢 風雨甚 止林之雀鳥多死」、及び『徳川実紀』に「八月三日 京辺は去月廿七日、八日の夜風雨烈しく 加茂 淀川辺漲のよし注進す / 四日 淀伏見 大阪高槻より所々洪水のよし注進あり」とあることから、当社殿も致命的な損傷を被ったのかも

しれないし、慶安5年に再建されたとしている。

しかし、今回の木札が多数確認されたことにより、次のことが考えられる。

1. 『宇治郡名勝誌』（明治31年）には「慶安三年庚寅四月再興セリト云フ」とあり、明治31年では慶安3年の造営と伝えられていた。
2. 大正7年の氏子が取付けた棟木板には「慶安三年」に造営されたとあり、大正7年では慶安3年に造営されたと認識されていた。
3. 大正7年以降、柳社の慶安5年木札と文政2年木札が本殿の木札と一緒に保管されたため、昭和60年の指定調査では、慶安5年造営と判断された。

以上より、確定ではないが萱尾神社本殿は慶安3年に造営され、本殿両側に建つ田中社と柳社は慶安5年に造営されたと想定できる。新たに確認された木札は末社を含め、京都市指定文化財萱尾神社本殿の追加の附指定となることが令和3年1月25日に京都市文化財保護審議会で答申された。

謝辞

萱尾神社氏子総代様には何度も調査のご協力をいただき、修理を実施された中西工務店からは修理中の写真をご提供いただいた。また、本調査の部材の痕跡については公益財団法人竹中大工道具館の植村昌子氏にご教示いただいた。末筆ながら深く謝意を表します。

千木良礼子（文化財保護課 文化財保護技師（建造物担当））

資料 1 木札翻刻

(縦書、11 頁より)

稻荷社棟札（于時承応四乙未曆三月廿日の記がある）縦四五〇mm、横六五mm、厚一一mm、スギ板目、表・側面台鉋、裏縦挽鋸一部台鉋；釘穴二ヶ所、稻荷社棟木打付け発見後、社務所保管。

稻荷社木札（于時承応四乙未曆三月の記がある）縦一五二mm、横四一二mm、厚約二〇mm、材質・加工痕・釘穴不詳、稻荷社天井部に打付
け。



(表)

四力
（釤有）
于時承応四乙未曆三月廿日
立柱上棟 己魁 日野住藤原朝臣重次
大工源六
（釤有）

于時承応四乙未	立柱上棟	日野住藤原朝臣重次	祐秉
三月廿日	己冠	大工源六	文五郎
日野住藤原朝臣重次	己未	加兵衛	惣兵衛
大工源六	三月廿日	長兵衛	久兵衛
(釘有)	己未	三右衛門	小十郎
	己未	在所中	巳助
	己未	于時承応四乙未	祐秉

(裏未確認)

(表)



田中社木札（文政二卯年八月の記がある）縦三二二mm、横三六一mm、厚一〇mm、材質不詳ヒノキ板目、表・側面・裏台鉋、釘穴無、田中社社殿内で発見後、社務所保管、本殿附指定「文政二卯年八月の記があるもの」とほぼ同じ内容。



(表)		御修覆	七月十八日下遷宮	但シ 戌ノ下刻	遷宮師	新坊頼昌	照行坊快遵
月行事	梅本坊						
大工							
屋根師							
伏見板や清左衛門							



田中社棟札（昭和十八年の記がある）尖頭形、総高三六二mm、肩高三四〇mm、上幅二〇八mm、下幅一七二mm、厚一三mm、スギ板目、表・裏面・裏台鉋、釘穴無、社務所保管。

御法事理趣三昧	樹下坊長勒
文政二卯年年寄源兵衛	南之坊光遍
八月	井脇坊存雅
以上	正覺坊快実
五左衛門	梅本坊頼慶
半右衛門	
九右衛門	
重右衛門	

樹下坊長勒	南之坊光遍
井脇坊存雅	正覺坊快実
梅本坊頼慶	

柳社棟札（慶安五年二月五日と同三月朔日の記がある）尖頭形、法量・材質不詳、釘穴二ヶ所、柳社小屋裏保管、田中社棟札と同じ内容、刻印有。



（表）
萱尾大明神両社并 拝殿一度立申候
（釘有）慶安五年二月五日と同三月朔日宗上ヶ也
（釘穴カ）藤原 源六（刻印小）

（裏なし）

田中社棟札（慶安五年二月五日と同三月朔日の記がある）尖頭形、総高五八〇mm、上幅一〇四mm、下幅九〇mm、厚一八mm、スギカ板目、表・側面台鉋、裏手斧、釘穴二ヶ所、田中社小屋裏で発見後、社務所保管、柳社棟札と同じ内容、刻印有。



（表）
萱尾大明神両社并 舞殿一度立申候
（釘穴）慶安五年二月五日と同三月朔日宗上ヶ也
（釘有）藤原 源六（刻印小）

（裏なし）

田中社木札（慶安五年三月朔日の記がある）縦三三三mm、横四二〇mm、厚二三mm、材質不詳、表側面台鉋、裏縦挽鋸、釘穴二ヶ所、社務所保管、本殿附指定「慶安五年三月朔日の記があるもの」とほぼ同じ内容。

（表）

（釘有）萱尾大明神両社并二拜處及
大破坊中年寄為有所中

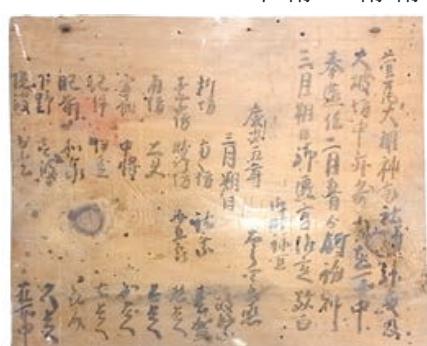
奉造作二月五日と釘初則
三月朔日御遷宮治定敬白

慶安五年 三月朔日 御時称宜
太郎四良丞

新坊 真乘坊 角坊 宰相 紀伊 下野 肥前 隠岐 壱岐 和泉 出雲
南坊 勝行坊 大夫 中将 伊豆 右兵衛 長兵衛 加兵衛
祐乘 斎五郎 惣兵衛 春盛 政繁

在所中

（釘有）
（裏なし）



本殿附木札（慶安五年三月朔日の記がある）縦三四二mm、横四一〇mm、厚二〇mm、材質不詳、表側面台鉋、裏縦挽鋸、釘穴一ヶ所、社務所保管、田中社木札（慶安五年三月朔日の記がある）とほぼ同じ内容。

（表）

萱尾大明神両社并ニ拝處及大破
坊中年寄為有在所中奉造作
二月五日右斬初則三月朔日御遷
宮治定敬白

御時祢宜太郎四良丞政繁

新坊	南坊	春盛
真乘坊	勝行坊	惣兵衛
角坊	宰相	大夫
紀伊	肥前	中将
下野	出雲	伊豆
祐乘	壹岐	和泉
在所中	隱岐	久兵衛



八月朔日上遷宮同断

遷宮師

新坊頼昌

照行坊快遵

樹下坊長勒

南之坊光遍

井脇坊存雅

正覺坊快実

梅本坊頼慶

御法樂理趣三昧

以上

文政二年八月 傳兵衛

九右衛門

五左衛門

半右衛門

重右衛門

大工 泉町羽田藤左衛門
屋根師 ふじ三板屋清左衛門

（表）
御修覆
七月十八日下遷宮
（但シ下刻）

（裏）
月行事
梅本坊

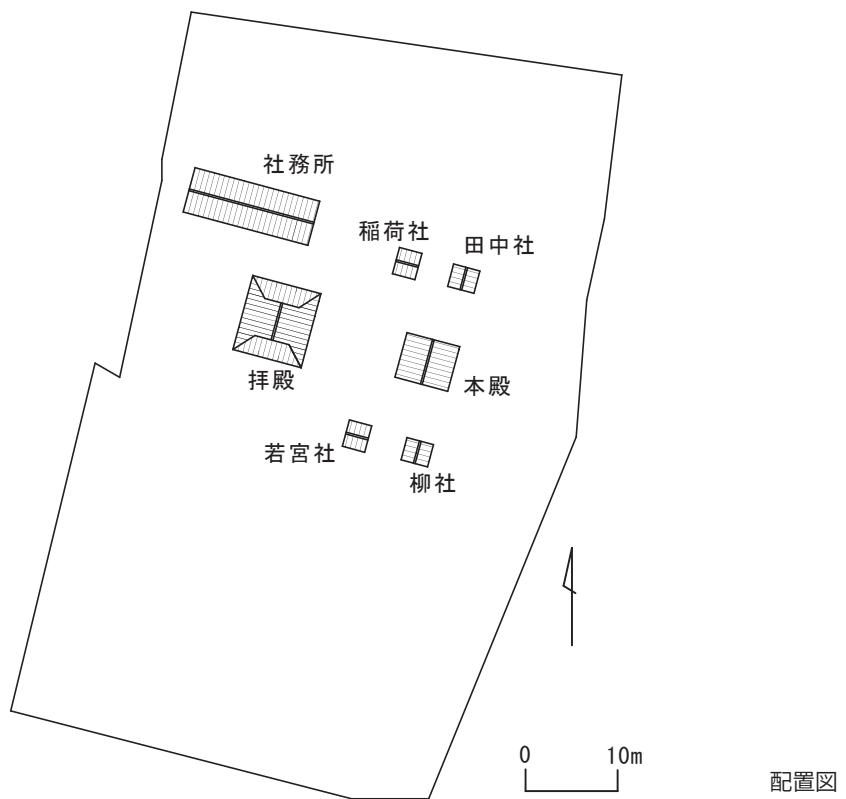
（裏なし）
本殿附木札（文政二卯年八月の記がある）縦三三二mm、横三六三mm、
厚一二mm、材質不詳ヒノキカ板目、表・側面・裏台鉋、釘穴無、社務
所保管、田中社木札（文政二卯年八月の記がある）とほぼ同じ内容。



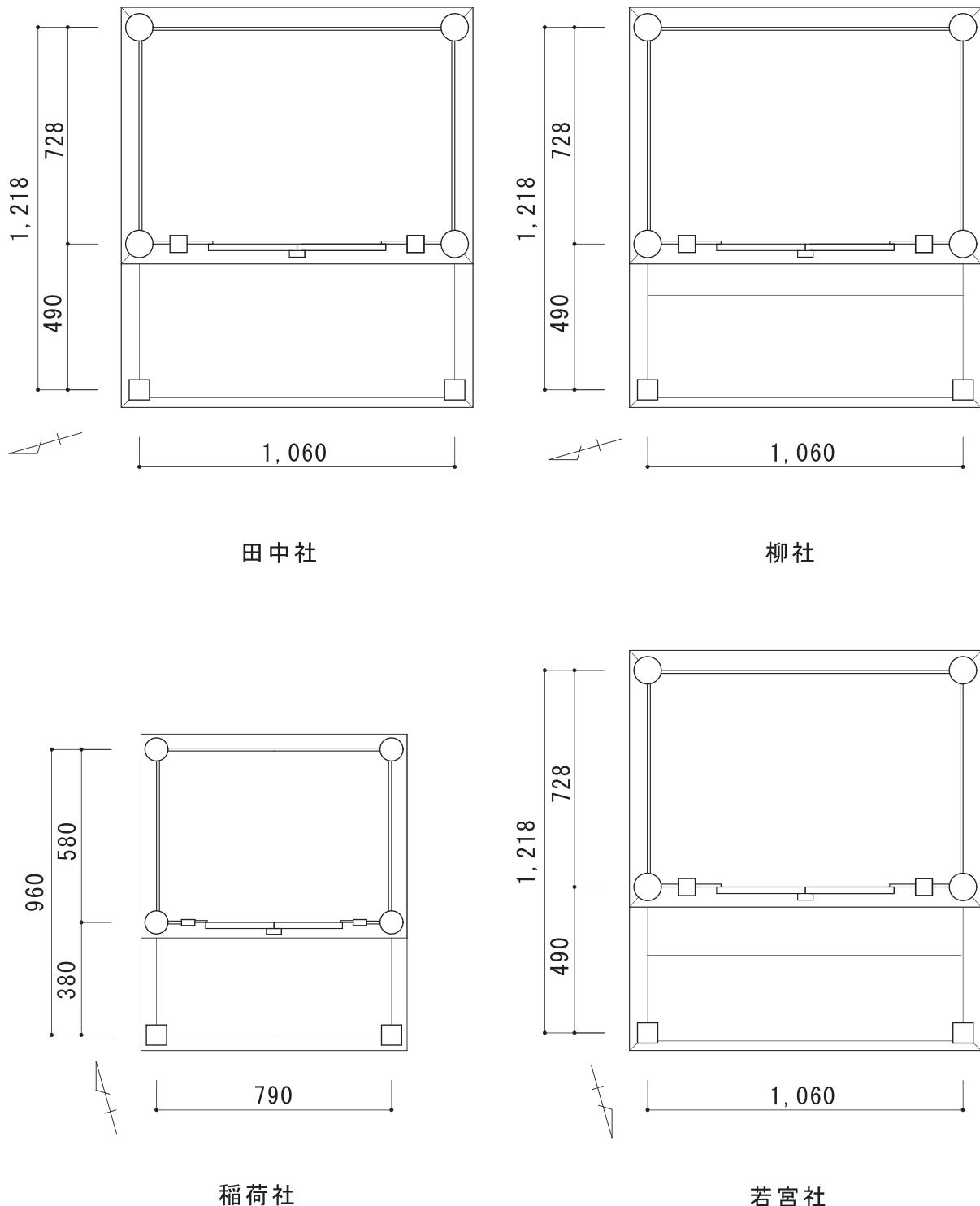
資料2 図面



位置図



配置図



末社 平面図